

会 派 活 動 報 告 書

令和 7年 4月 20日

岡谷市議会議長

今 井 康 善 殿

会 派 名 正副議長室

代表者名 今井 康善

令和 元 年度における岡谷市議会 会派「おかや未来研究室」の活動について、下記のとおり報告いたします。

活 動 項 目	活 動 内 容 及 び 活 動 の 実 績 と 効 果
調査研究	会派おかや未来研究室及び会派やまびこ の報告内容に準じる。 ○活動内容 5月22、23日 視察 ・東京都三鷹市「探究学舎」～受験も勉強も教えない、驚と感動の種をまく学び舎～ ・茨城県境町「さかい道の駅」～自動運転バス試乗ほか～ ・埼玉県草加市「草加市役所」～そうかりノベーションまちづくり構想～ 7月31日 視察 ・南箕輪村役場 「南箕輪村における人口増加の要因～移住者も暮らしやすい環境づくり」 ・日本聴導犬協会（宮田村） 「聴導犬・介助犬の育成について」 8月21日 視察 ・小諸市 都市計画課「まちタネ広場について」 ・高野慎吾氏（元市職員で現不動産業）『おしゃれ田舎プロジェクトについて』 ・犀の角（上田市）「のきしたプロジェクトについて」 ・上田映劇（上田市）「上田子どもシネマクラブについて」 11月11日～11月14日 視察 ・1日目、しまなみ海道サイクリングロード体験・視察（今治市泊）

- ・2日目、松山市役所「全世代型防災教育と自主防災組織について」（松山市泊）
- ・3日目、小豆島 二十四の瞳映画村「SDGs 取組事例と映画・地域課題について」、小豆町観光協会「オリーブ等を活用したシティプロモーションについて」（高松市泊）
- ・4日目、岡山市内「瀬戸内スタートアップ事業（民間）について」

1月17日

現地視察

児童養護施設「つつじヶ丘学園」

施設見学、川瀬学園長との懇談

「児童福祉や教育に関する地域課題について」

2月7日

現地視察

諏訪児童相談所

森美奈子所長および栗幅健晴副参事

「社会的養護と里親制度について現在の取り組みと課題」

○活動の実績と効果

①東京三鷹市「探求学舎」

公教育では出来ないことをやっているとおっしゃっていましたが、公教育にも探求学舎のエッセンスを入れたら、子どもたちにとって楽しい授業になるでしょうし、子どもたちの探求心に火が付くことで学校がもっと楽しい場所になると思いました。探求学舎は子どもたちの居場所の役割もあるとおっしゃっていました。それに対し中島議員の学生の頃は、みんなが家にいるよりも楽しくて、学校が居場所だったようです。（私の頃もそうだったと思います）背景としては、昭和時代は今と比べると先生も児童・生徒も自由だったことが理由の一つのようです。居場所というキーワードは、これからの学校づくりに、とても重要になると思います。教育は10年後、20年後の岡谷市や日本を創るものですので、何においても最優先で取り組むべき事案だと考えています。今回の視察は午前中でしたので、実際の授業の様子を見ることはできませんでした。次回は授業を受けている子どもたちの表情や変化を見たいものです。岡谷市においても川岸学園構想をキッカケに市内の全小中学校の、これからの教育をどうするのか？将来の岡谷市にどんな人材が必要なのか？そんな議論が全市的に活発になるように取り組んでいきたいと思いました。

②茨城県境町「さかい道の駅」

岡谷市にはシルキーバスや路線バスがあるものの、地域内の公共交通インフラ

が弱く、便数も限定的であることから、住民の高齢化が進んでも自家用車を利用しないと移動手段がなく、なかなか高齢者が安心して運転免許の返納ができないという実情がある。「道の駅さかい」を基点とする「自動運転バス」が、地域の活性化や市民プライドの形成に一役買っているのは間違いないのだが、財務的に現在の岡谷市では真似をしようがないが非常に残念だ。境町はふるさと納税額が6年連続で関東圏第1位であり、その額は40数億円にも上る。自主財源の豊かさがあってこそ地域活性化であり、予算の縮小均衡を名目に“人減らし”に走って地域の停滞や後退を招いている岡谷市とは雲泥の差がある。ふるさと納税戦略室の設置を提言しても聞いて聞かぬふりをしているような現状では。

③埼玉県草加市「草加市役所」

「そうかりノベーションまちづくり」により、およそ10ものお店がオープンし、空いている建物がなくなったという。草加は決して小さい街ではないが、街のエッセンスになっている。

「D10 (Do it ourselves) =ほしい暮らしは私たちでつくる」をミッションに掲げ、2階建ての古いアパートをリノベーションした「シェアアトリエ つなぐば」は、やりたいことと、必要なことが詰まっていて、とても良いと感じた。やりたいことは、地域の人が利用できるカフェやシェアアトリエ、美容室など。必要なことは、子連れで働けるシェアアトリエと子どもスペースのあるカフェ。ここに設計事務所「つなぐば家守舎」が入っている。いわばそうかりノベーションまちづくりの象徴的な施設と言える。「仕事につながる／母親につながる／地域につながる」の3つを軸に運営しているという。こういう場が岡谷にもつukれないだろうか。準備ができればここから旅立ち、また新しいメンバーが入ってくる。その循環は鳥の巣立ちを思わせる温かみがある。異業種の人たちが集まることで、いろいろなアイデアや可能性が生まれたり、想像していなかったようなプロジェクトの誕生につながったりするのだそう。一緒に日々を過ごして、共通の課題を持っているからこそだと感じた。

④南箕輪村役場

概要として、人口16079人（今年7月1日現在）、移住者の割合は73.3%（2022年3月策定の地域福祉計画におけるアンケート結果による）、社会増と自然増の両面で人口が増加している（足元で死亡数増加により、自然減に）。30代から50代層が多く、高齢化率も23.8%で県下で最も低く、若い村である。移住者が多い理由としては、子育て支援の充実と近隣市町村に比べて地価が安いということであった。ただ、移住者を増やすために子育て支援に力を入れたというよりも、「日本一の子育てに優しい村」をめざして、今いる村民の子育てを応援しようと早い時期に取り組んできたところ、口コミで広がり、結果的に移住者が増えたということで、大変に印象的であった。女性がかがやき、活躍している村であるという事を感じた。実際のところ、村役場の管

理職の半数が女性とのことであった。同席した副議長によれば、議場における理事側は半数が女性とのことであった。これも、単に女性の管理職を増やそうと取り組んだというよりも、子育て支援にも関連して、女性の就業支援にこれまで継続的に取り組んできた結果ではないかと思われた。自治会の改革にも取り組んでいるということ。なかなか手を付けられない事に、村長が率先して推進しているとの印象をもった。持続可能な自治会を目指して、高齢化等もあり負担を減らしつつ、村で出来ることを引き受けるとのこと。岡谷市としても、同様の課題があるので、今後の取り組みを注視するとともに、大いに参考にしていきたい。地域おこし協力隊の活躍も注目される。現在12人が活動中だが、随時受け付けているとのこと。たとえば、専門知識が必要な森林の管理など、既存の職員だけでは対応が難しかった分野で活躍しているとの事であり、岡谷市としても、参考にしていきたいと思う。感想としては、まず自治体としては、今いる住民を大切にし、魅力あるまちづくり、住みよいまちづくりを目指して、継続的に政策の推進に取り組んでいくことが王道であり、肝要であるということ、改めて確認する事が出来たと思う。

⑤日本聴導犬協会

バリアフリーの聴導犬・介助犬訓練センターは2008年9月に竣工した機能的な建物でした。実際に、介助犬よしくん、聴導犬ひさちゃん、せいじくんに、順番待ちの呼び鈴を知らせる、目覚まし時計が鳴った時に知らせる、落としてしまったスマホを拾う等のデモンストレーションを行って貰いました。高齢社会の進展とともに、誰もが障がいを持つ可能性があり、障害のある方の生活支援と動物福祉の活動は、ますます重要になる取り組みと感じた。学校教育の現場においても、多目的補助犬等の学習は有意義ではないかと思いました。

⑥しまなみ海道サイクリングロード

「しまなみ海道サイクリングロード」は、世界7大サイクリングコースに選定されているだけあり、ハード面では抜群の内容であった。今回、サイクリングを体験したコースは距離的には全体の1/7程度であったが、自転車で通行するストレスを感じることなく、また、自転車のレンタル・返却等ができるレンタルステーションが各所に整備されており、また、スマホ等の利用でサイクリングによる瀬戸内の島巡りの場合にも対応できる仕組づくりができています。・本州と四国を結ぶ橋を架ける際に自動車専用道路とすることなくサイクリングを活用した観光ビジョンの基に、県を跨いだ広域で推進することで其々の地域資源をフルに活用する手法は見習うべきところが多いと感じた。・今回のサイクリング体験は、僅か10km程であったが、再度訪れて、もっと時間を取って楽しみたくなったサイクリングロードは今回が初めてであった。このサイクリングロードのビジョンとハードのマッチングが上手くで

きているからだと思うが、また、ソフト面においても、「サイクリングしまなみ2024」やSNS等を活用したプロモーションと体験談等によって多くの人がしまなみ海道に注目して興味を持てる仕組づくりができていることもその一因であると思う。・「しまなみ海道サイクリングロード」は完成から25年が経過しており、細かな部分は別としても総体的には大変に魅力あるコンテンツとなっている。諏訪湖サイクリングロードを含めて各地にサイクリングロードが整備されて、其々に地域資源を活用した形になっているが、他にはない地域の魅力を上手く取り込んでいくことの難しさを感じた。・出合った人の半数位（もっと多いかも？）が、外国からの、所謂、インバンドであった。また、レモン果汁を提供している店では、現金が使えずにカード或いはスマホ決済であった。四国というイメージからは想像し難い部分であり、大変に驚いた。世界に向けた観光資源を活かしていくには、こういう部分の対応や整備も重要だと感じた。・泊まったホテル（しまなみプライムホテル今治）でもサイクリストへの配慮がされており、サイクリストの宿泊客も多かったが、今治の街の活性化に向けた「しまなみ海道サイクリングロード」の活用には興味があるところである。・「しまなみ海道サイクリングロード」には、多くの魅力的な場所や施設があり、また、是非訪れたい場所であった。

⑦松山市の防災・減災対策の取組み

松山市は、地域防災を担うリーダーとして期待される防災士の育成に、最も早くから取り組むことによって、災害に強いまちづくりを推進しているだけでなく、地域の活性化も進めているという印象であった。災害に強いまちづくりは、一面ではひとづくりが肝要であると感じた。行政主導だけでなく、自発的に活動して、自助や共助を担う地域防災リーダーの育成である。そうした人材は、地域のまちづくりにも積極的にかかわり、地域の活性化にとっても大事な人々になると思う。今年度から防災士取得費用の半額助成を始めた岡谷市にとって、大いに参考にすべきと感じた。

⑧小豆島「二十四の瞳映画村」

「二十四の瞳映画村」は、映画文化と文学遺産、風光明媚な自然景観を軸に地域の魅力を発信する観光地として多大なポテンシャルを持っていました。施設の維持や観光プログラムの多様化を図ることで、国内外からさらに多くの観光客を迎え入れる戦略が見事で、特に環境に配慮した「持続可能な観光地」という認識は非常に大切だと感じました。経済効果ばかりに目を奪われると、大切な景観や自然や文化遺産を失いかねません。文化遺産の保存と観光資源としての活用を両立するための施策を岡谷市でも検討していかなければなりません。

⑨小豆島、持続可能な観光

首長が変わったことを機に、小豆島に複数あった観光協会を1つ統合。観光事業の促進を進めることで持続的な島づくりの中心的役割した。リーダーが変わることでまちは変わるということを学びました。また、5年間で取り組む基本戦略を策定し、それに基づく10のアクションプランを設定。さらに、観光客の宿泊旅行調査など細かく行動分析を行っていた。課題点を明確にして戦略的に、観光を切り口として小豆島に住み続けることができるまちづくりを戦略的に行っていた。まちの強み弱みを分析することで明確な計画を立て実行していた。岡谷市においても明確なビジョンを持ったリーダーが必要であり、諏訪圏、特に諏訪湖周の2市1町の観光面における更なる協力をを行い、持続的で魅力ある観光の構築が可能だと感じました。

⑩つつじが丘学園

視察を通じて、つつじが丘学園が地域における児童福祉の拠点として重要な役割を果たしていることを再認識した。特に、中間施設（グループホーム）の増設や「こども宅食」の実施など、市として協力できる支援策が数多くあることが確認された。

今後、市としては、以下の点を検討する必要がある。

1. 施設支援の充実：施設間のICT化の推進や職員の労働環境改善を支援する。
2. 地域との連携強化：「こども宅食」事業への支援や、施設と地域社会をつなぐ仕組みの構築。
3. 児童の自立支援策：社会に出る際の準備として、職業訓練や教育支援を強化する。

つつじが丘学園の視察を通じて、施設が地域に根差した養護と支援を提供していることが分かった。施設職員の熱意や、子どもたちの健やかな成長を支える取り組みが印象的であり、今後、市としてどのような支援が可能かを引き続き検討し、児童福祉の向上に寄与していきたい。

⑪諏訪児童相談所

児童福祉法の理念である、子どもの権利擁護及び最善の利益の保障の実現のため、児童相談所の存在意義の大きさを改めて確認することができた。また、虐待など子どもがさらされる環境の要因は、複雑化・多様化していることから、児童相談所の職員のスキルアップが求められると感じた。とともに、初期段階から対応することが多い市の職員のきめ細かい対応や、専門性の高い対応が求められるようになってきていると感じた。里親制度が家庭養護の推進のため重要であると認識したが、なり手やマッチングの増加、支援体制の充実のため、更なる啓発等の取り組みが急務であると実感した。

○活動内容

令和6年11月11日～11月13日（3日間） 北海道

○活動の実績と効果

（1）北海道旭川市：中心市街地活性化計画「旭川まちなみ回遊」の取り組み

「旭川まちなみ回遊」の取り組みでは、中心市街地活性化計画の策定により、中心市街地の「都市機能の増進」・「経済活力の向上」を推進することを目的に中心市街地活性化計画の策定を行った。都市機能の整備では、所有権等権利が大きな弊害となっており計画的な整備が進められないことは、岡谷市においても共通の問題である。また、市街地活性化計画の事業実施においてはハードによる整備が主で、官民連携や地域住民との積極的な関わりであるソフト面の取り組みが進んでいない印象だった。一方で、全国初の恒久的歩行者専用道路は、安心して買い物やイベント等日常を楽しむことのできる魅力あふれるエリアであり、こうした空間を作ることで、人の流れや回遊性のあるまちづくりをすることができる重要な拠点であると感じた。

岡谷市に反映すべき点

- ・ 岡谷市とは規模が異なるため同様の事業の考えは難しいが、歩行者が安心して買い物やイベント等日常を楽しめる空間の創出は反映できる点である。岡谷駅からレイクウォークにかけての商店街の導線は旭川市駅前商店街と同様の位置づけであり、週末のみ歩行者専用道路等にすることで、魅力的なまちづくりの創出にも繋がる。
- ・ 市役所庁舎内を日常的に解放することは良い点で、1階ロビーや9階に学生をはじめ市民が日常的に憩いの場として過ごせるフリースペースの導入を積極的に取り入れても良い。

（2）北海道東川町：地域活力を活かした教育環境と国際教育の推進

地域活力を活かした教育環境と国際教育の推進では、広大な敷地と平屋建ての新しく建設された小学校を起点としたまちづくりは、ハード・ソフト両面が効果的に作用することで初めて機能し、どちらか一方だけが優れていても、大きな効果は得られないと感じた。

- ・ 町の中での仕事自体は少なく、都市部に働きに出ている方が多い実情から、仕事がなくとも魅力的な要素があれば、移住者が増えることを理解した。
- ・ 魅力的なまちづくりの視点では、学校教育と子育て支援をセットとした考えが必要で、教育施設等のハードの整備やソフト面の充実だけでなく、子どもを安心して生み育てることのできる環境の整備も進める等、子育て支援も合わせて進めることが重要と感じた。

岡谷市に反映する点

- ・ 写真文化の町をはじめ、豊富な水資源や大雪山「旭岳の町」、木工家具の町等様々な魅力あふれる要素に加え、新しく整備された東川小学校と給食費無償化をはじめとした子育て支援策や特色ある教育カリキュラムが魅力とな

り、定住人口が右肩上がりに推移していることは大変参考になった。

- ・ふるさと納税が16億、企業版ふるさと納税も5～6億と岡谷市と比べると桁違いな数字であり、返礼品は町特産のお米がほとんどとのこと。「ふるさと納税」ではなく「ふるさと株主」という発想で、他の自治体になかった新たな取り組みをすることで、差別化を図りまちの魅力向上や価値の共創を進めている。

- ・2015年に開校した公立日本語学校は全国の自治体から注目を集めており、3ヵ月以上の滞在予定であれば住民要件を満たすため、留学生によって人口が年間約250人上乗せされ、地方交付税の増額に繋がっている

(3) 北海道江別市：生涯活躍のまち「ココルクえべつ」

生涯活躍のまち「ココルクえべつ」では、地域特性や人口減少などの課題を踏まえ、東京圏から移住してもらうのではなく、市内に住む江別市民が生涯にわたって安心して生活できるまちづくりや、若年層や障がい者など多様な市民との交流による「共生のまち」を実現するため、江別版「生涯活躍のまち」構想を平成29年3月に策定し、社会福祉法人日本介護事業団を代表法人とした、つしま医療福祉グループが事業主体となり「ココルクえべつ」を開設した。

- ・「ココルクえべつ」は障がい者の就労支援や高齢者福祉、市民交流の場等多機能施設であり、施設内では障がいを持つ方々が自信を持って働ける環境が整備され、市民が気軽に立ち寄り交流を楽しめるスペースもあり、地域全体がつながる場として機能している点が印象的だった。

- ・高齢者に対しては、生活支援や健康維持を目的としたプログラムが充実しており、多世代が交わる空間となっており、誰もが気軽に立ち寄ることができるタウン型施設であった。

- ・「ココルクえべつ」は単なる施設にとどまらず、地域の課題を解決する拠点であり、多様な人々が共に支え合う社会の縮図であり、見学を通じ地域の中で互いに支え合うことの大切さと、誰もが役割を持ち活躍できる環境の素晴らしさを再認識することができた。

岡谷市政に反映すべき点

- ・多機能な施設は難しいが、障がい者や高齢者の地域全体を巻き込んだ交流の場の構築。

- ・障がい者の就労支援や市民交流、高齢者支援を行う一体的な施設は効率的であり、地域全体を活性化する点で非常に有益である。

- ・利用者が自分のスキルや可能性を活かせる、複数の具体的な就労機会を提供する取り組みは、社会的自立を促しつつ地域経済にも貢献する。

- ・市民が気軽に訪れ交流できるオープンスペースの設置や多世代が自然に関われる工夫は、地域コミュニティの強化に繋がるため、孤立を防ぎ地域力を向上させる効果が期待できると考える。

○活動内容

4月18日・19日

JIAM 大津研修

「国家戦略特区の取組と地方創生」

講師 兵庫県養父市長 広瀬栄氏

「吉本興業の地域創生の取り組み」

講師 吉本興業ホールディングス（株）代表取締役副社長 泉正隆氏

「地域マーケティングによる戦略的なまちづくり」

講師 秋田大学准教授 益満環氏

「地域ブランディングのケーススタディ」

（株）CARTA 代表取締役 矢田部美里氏

○活動の実績と効果

①国家戦略特区の取組と地方創生

過疎化が進み将来的に消滅都市となる危惧のある中で、様々な取組に果敢に挑戦している養父市長の心 意気とチャンレンジスピリットには感銘したし、大いに学ぶべきだと思った。 様々な取組により養父市の未来への道筋をつけようとする姿勢とそれに向けた努力には敬服するが、一方で、これらの取組の先に養父市の未来が描けているかという点必ずしもそうでないのでは？とも感じた。先の結果は 別としても先ずは当面の課題解決にチャンレンジをすることにフォーカスしている様に思った。宇野議員の「移住、定住への効果は？」という質問でも、「何処にも負けない手厚い手当てや取組をしても人 が来ない」という返答であったが、岡谷市でも移住・定住に向けては、そういった取組だけではなく、人が住むに あたって、より本質的な部分で価値のあるまちづくりをしていくことが必要なのではないかと思う。 ・岡谷市には、将来においてポテンシャルの高い要素がいくつもあり、それらを活用できる仕組みづくりが重要で、特に、特区（諏訪湖周の水辺空間）の活用を積極的に考えていく必要がある。

②吉本興業の地域創生の取り組み

地域への移住（・定住を推進する政策の要は（“楽”の政治）だと私はずっと考え続けて来た。行政が提供する様々な施策によって老若男女の市民生活が楽になり、住んで楽しいまちづくりの推進である。その具体策を考えるためのさまざまなヒントを吉本興業の取り組みに見出すことができる。諏訪広域連合主催の婚活事業イベントで、吉本芸人が よしもとすわ婚隊長」として恋のキューピット役としてイベントを盛り上げた過去の実例もあり、岡谷市でも吉本芸人とのコラボ事業をぜひとも企画してみたいと思った。

	③地域マーケティングによる戦略的なまちづくり デジタル社会における地域活性化や地方創生には、地域特性に応じた、ローカルイノベーションが欠かせないと感じました。イノベーションとは、物事の「新機軸」「新結合」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用方法」を創造する行為のことで、それまでのモノ・仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出して大きな変化を起こすことです。大仙市の日本酒の取り組みを 1 つの事例として、岡谷市の歴史・文化、地域特性、特徴を踏まえたモノ、コト、ヒトを考えることが重要であり大変参考になりました。
広 報	○活動内容
広 聴	○活動内容 ○活動の実績と効果 約 40 名の市民から議会についてや様々な事柄についてご意見をいただきました。
要請・陳情	○活動内容 ○活動の実績と効果
そ の 他	○活動内容 ○活動の実績と効果

【活動実績】

※会派活動報告書は年度ごとにまとめ、年度当該年度の収支報告書の提出に合わせ議長に提出するものとする。

※議長は、提出された会派活動報告書を収支報告書と同様に公開するものとする。